

第2学年 道徳科学習指導案

1 主 題 名 誇り高い生き方 D よりよく生きる喜び

2 主題設定の理由

(1) 価値観

「気高く生きようとする心」とは、自己の良心に従い、人間性に外れずに生きようとする心である。誰しもの心の中には、良心ばかりではなく、弱さや醜さもあり、それらが互いに戦いながら生きている。本時では、杉原千畝としての「個の思い」、外交官としての「国の思いや誇り」、父親としての「家族の思い」など、様々な立場からの苦悩や葛藤を取り上げ、「誇り高い生き方」についての考えを深めさせたい。

(2) 生徒観

多くの生徒は、物事の善悪を頭の中では理解している。しかし、常に最善の行動や言動をとることができない生徒もいる。自分の行動や言動を他人のせいにして自分を守ったり、見て見ぬ振りをしたりと、自分が一番大切だからこそが故の姿である。これまでの道徳の授業を通して、思いやりや正義などについての考えを深める中で、自分よりも他者の利益を優先したいと考えたり、自分の正義に従って行動したいと考えたりする生徒が増えてきた。本時の授業を通して、生徒一人一人が現在の自己課題と向き合い、これからの自分の生き方についての考えを深めさせたい。

(3) 教材観

本教材は、第2次世界大戦中、日本の外務省の意向に背き、ナチスに迫害されたユダヤ人のためにビザを発行した外交官の杉原千畝の話である。「千畝と同じ立場だったら、ビザを書けるか、書けないか」と生徒に問う中で、「人を助けたい」という千畝の信念と、外務省からの退去命令に苦悩する心情に迫らせたい。そして、単なる「いい話」で終わらせず、政府の命令に従わなかったことや家族を危険にさらしたことなど、千畝への批判にも目を向け、どんなに批判されても輝きを放つ千畝の生き方から、内なる自分に恥じない誇り高き生き方に気付かせ、自分自身にとっての誇り高い生き方への実践意欲と態度を育てたい。

3 本時のねらい

- 第2次世界大戦という不安定な国際情勢の中、外務省の命令に背き、ユダヤ人にビザを発行した杉原千畝の決断について考えることを通して、自分自身にとっての誇り高い生き方への実践意欲と態度を育てる。

4 準備・教材

- 教材名「六千人の命のビザ」
- 生徒……ネームプレート
- 教師……タブレット端末、ワークシート、ホワイトボード、振り返りシート、板書用掲示物

5 関 連

道徳 「語りかける目」(気高く生きる)

6 学習指導過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
導 入	1 本教材の内容を確認する。 (1) 杉原千畝について確認する。 ・リトアニアの日本領事館で働く外交官。 ・ユダヤ人にビザを書いた人。 (2) ユダヤ人について確認する。 ・ナチスに迫害されていた。 ・ナチスに捕まらないように逃げたい。	8	○ 座席をコの字型にしておく。 ○ 本教材をあらかじめ読ませ、当時の国際情勢について説明しておく。 ○ 日本福祉大学の学生に、当時の時代背景を説明してもらおう。 ○ 大型モニターに教材の概要(デジタル資料集「整理しよう」)を提示し、本教材の概要を押さえる。
展 開	2 千畝の決断について考え、話し合う。 千畝と同じ立場だったら、ビザを書けるか、書けないか。		○ ワークシートを配付する。 ○ ワークシートに「書ける」か「書けない」
	○ 書ける ・ユダヤ人を助けることができるのは		

展 開	<p>自分だけだから。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を救うことが正義だから。 ・ビザを書かなかったら、ユダヤ人を見殺しにするのと同じだから。 ・外交官だから。 ・外交官をクビになっても、他にも仕事はあるから。 <p>○書けない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外交官として、国の命令に背くことはできないから。 ・命令に背き、クビになりたくないから。 ・自分の信念を貫き通すことで、家族を危険な目に遭わせたくないから。 ・ナチスドイツは同盟国だから、裏切ったら日本も攻められてしまうから。 	20	<p>か意思表示をし、その理由を記入させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○黒板にネームプレートを貼らせる。 ○生徒を指名し、理由を答えさせる。 ○千畝、外交官、千畝の家族、ユダヤ人、ナチスなど様々な立場から、書いた場合と書かない場合とで、どのようになるのかを考えさせる。 ○「どちらが正しい」という結論を押し付けるのではなく、互いの意見を聞くことによって、千畝の苦悩や葛藤する心情に迫らせ、それでも千畝がビザを書き続けることができた理由（中心発問）へとつなげる。
	<p>なぜ、千畝は外務省の命令に背いてまで、ビザを書き続けたのか。</p>		
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ・外交官としての責任感から。 ・ユダヤ人も同じ人間で、命の重さに変わりはないから。 ・自分の信念（良心）に従ったから。 ・目の前のユダヤ人を救うことができるのは自分しかいないという使命感から。 ・ユダヤ人の立場になって考えることができたから。 	35	<ul style="list-style-type: none"> ○近くの座席の4～6人程度を1組とし、意見交換させる。ホワイトボードを配付し、それに出た意見を書かせる。 ○大学生にも話し合いに参加してもらい、生命尊重や責任感、使命感などに関する意見が生徒から出るように、補助発問をしてもらう。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>補 千畝が生きる上で大切に考えていること（信念）は何だろう。</p> <p>補 汽車が出発するまで書き続けたのは、どんな思いからだろう。</p> </div>
	<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 千畝の後日談を聞く。</p>	38	<ul style="list-style-type: none"> ○各グループの代表者1名に、話し合いで出た意見を発表させる。 ○日本への帰国後、外務省をクビとなったが、1985年にイスラエル政府から「諸国民の中の正義の人」を受賞し、2000年に日本政府による公式な名誉回復がされたことを説明する。人道的な行為は、時と場合によっては大きな覚悟が必要になることもあり、大人でも難しい判断を迫られるときもあるため、その時々でしっかり判断し、行動できる力を付けてほしいことを伝える。
	<p>話し合いを通して考えたことや、千畝の生き方から感じたことをまとめよう。</p>		
	<p>(3) 発表し、意見を共有する。</p>	45	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒を意図的指名し、発表させる。 <p>評 千畝の生き方から、自分に恥じない、誇り高い生き方をしていこうと考えている。</p>

7 本時の評価

- 杉原千畝の生き方を通して、自分自身にとっての誇り高い生き方を考え、実践していこうという気持ちを高めている。(振り返りシート、発表)

8 備 考

- 生徒の活動時間を確保するため、事前に本教材を読み、当時の国際情勢についておさえておく。
- 日本福祉大学のインターンシップ生と連携し、生徒が多様な価値観に触れられるように生徒の思考を促すなど、T2的な役割を担ってもらおう。

9 板書計画

六千人の命のビザ		なぜ、千畝は外務省の命令に背いてまで、ビザを書き続けたのか。		
千畝と同じ立場だったら、ビザを書けるか、書けないか。				
書ける	書けない			
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>			
理由	理由			
・ ・	・ ・			
・ ・	・ ・			